

学校教育目標	『未来を拓け』 ～ 自己の創造 ・ 生きる自信 ～
目指す学校像	「授業」第一主義 「生徒」至上主義 「地域」尊重主義

重点目標	1 基礎的・基本的な学習内容の指導を基にした、基礎学力の向上 2 生徒の豊かな心の育成と、生徒一人ひとりに寄り添った支援の推進 3 保護者・地域等とのコミュニケーションを基にした、コミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備と、健康で安心・安全な学校生活の推進 5 保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	実施日令和8年1月31日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○令和6年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査では、国語・数学ともに市の平均正答率と比べ、課題がある状況である。 ○授業に関しては、落ち着いて取り組んでいる。しかし、基礎学力及び確かな学力の定着に結びついていない。 【課題】 ○令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語においては「書くこと」、数学については「数と式、図形、関数」に関する学習内容が課題である。 ○学習内容の基礎・基本の定着が課題である。 ○家庭学習の定着が課題である。	・学習内容の基礎・基本の定着 ・学習に対する達成感・成就感の経験	①T T・少人数指導を活用し、個に応じた指導を実施する。 ②タブレット端末など様々なツールを活用し(学校・家庭)、基礎学力の定着と家庭学習の定着を図る。	①学校生活アンケート(生徒)の学習に関する質問で、肯定的な回答が85%以上となったか。 ②学校生活アンケート(生徒)の家庭学習に関する質問で、肯定的な回答が60%以上となったか。	方策の評価指標①については、「授業はよくわかりますか。そして、自分の学力は伸びていると思いますか。」という質問で84%となり達成できなかった。②については、自主学習や家庭学習の取組が56%となり達成できなかった。	C	学力の向上については教職員がそれぞれの立場で折に触れて対策をする必要がある。教科の授業のみならず、集会や各種たよりでも学力向上に係る話題を積極的に取り上げ、全校を挙げて課題の解決へとつなげていく。	学習に関しては、小学校と状況がよく似ている。朝学習の時間を活用した繰り返しの取組が重要だと思われる。			
2	【現状】 ○令和6年度学校生活アンケート(生徒)において、「いじめや差別をすることなく、思いやりの気持ちをもってみんなと協力し、学校生活を送っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、97%であった。 ○令和6年度学校生活アンケート(生徒)において、「先生方は悩みや相談に親身になって応じてくれていますか。」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、95%であった。 【課題】 ○生徒の豊かな心を育成するために、各授業や諸活動の内容を改善していかなければならない。 ○学校に足が向かない生徒に対しての、受入態勢と学習室等の整備をより行っていく。	・生徒一人ひとりへの細かな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・組織的な生徒指導・教育相談・特別支援教育の実施と生徒一人ひとりに寄り添った支援の実施	①担任・さわか相談員・スクールカウンセラー等の連携を強化し、生徒一人ひとりへの支援体制の整備と強化を行う。 ②具体的な支援計画の検討と実施	①学校生活アンケート(生徒)の生活に関する質問で、「そう思う」の回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、教職員の取組に関する質問で、肯定的な回答が80%以上となったか。	方策の評価指標①については、96%となり達成できた。②については、71%となり達成できなかった。教職員が親身になって生徒に対応してはいるが、その様子が保護者に伝わっていないことが考えられる。	B	特別の教科道徳の授業を丁寧に実施し、生徒のモラルをさらに高めていきたい。また、些細なことであっても保護者に連絡をし学校での指導の様子が保護者に見えるようにしていきたい。	保護者アンケートによると、思いやりの心や生命を尊重する取組や生徒の悩みやトラブル等について適切に対応している、といった項目が弱い。一方、生徒アンケートでは高い数値なのでその認識の差を埋めていくことが必要である。			
3	【現状】 ○「豊かな心(学力・判断)・豊かな心(挨拶・自他尊重)・豊かな心(健康・体力)・豊かな心(地域・郷土)」で、地域を担える生徒を育成するために、具体的な取組を熟議した。 【課題】 ○令和7年度は、これまで熟議したことを基に、学校・家庭・地域で取組を実施し、生徒の変容を検証していかなければならない。	・生徒の姿を地域全体で共有する教育活動の展開 ・生徒の地域活動への参加及び地域人材を活用した教育活動の推進	①学校だより及びホームページを活用し、学校運営協議会及びSSNの情報並びに取組を発信し、めざす生徒像等を広く共有し生徒を育成していく。 ②学校行事・学校公開を活用し、生徒及び教職員の活動を保護者・地域に広め、学校の取組を理解していただく。	①学校評価に係るアンケート(保護者)で、「教育活動の積極的な公開を行っている」の質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、「めざす生徒像」に関する質問で、肯定的な回答が80%以上となったか。	方策の評価指標①については、88%となり達成できなかった。②については、69%となり達成できなかった。学校公開日の周知についての発信が弱かったことが考えられる。また、生徒の登下校時のマナーについて課題があることが考えられる。	C	学校公開については紙面やデジタルでの発信を通してさらに周知していく必要があると感じた。生徒の学校内での規範意識は比較的高いと感じているが、校外でのヘルメット着用徹底など不十分などところを改善していきたい。	教育活動についてホームページに頻繁に掲載していることは評価できる。一方で、学校公開については様々な手段を用いて周知できるとよい。地域との関わりについては今後検討が必要である。			
4	【現状】 ○令和6年度学校生活アンケート(生徒)において、「安全に気をつけた学校生活をしていますか」、「健康に気をつけた学校生活をしていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合が、96%であった。 【課題】 ○落ち着いた行動を行うことができず、不注意でけがをしようとする生徒が若干見受けられる。	・生徒が落ち着いた生活を送ることができている環境整備の徹底。 ・教育環境・学習環境の整備及び、生徒の安全への意識の向上	①日頃からの、学校・学級の環境整備。 ②保健体育・特別活動・道徳の授業を活かした指導を行う。	①学校生活アンケート(生徒)の「学校が楽しいですか」の質問で、「そう思う」の回答が90%以上となったか。 ②学校評価(教職員)で、「健康・安全においてきめ細かな指導が適切に行われているか」の質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。	方策の評価指標①については、91%となり達成できた。②については、91%となり達成できた。教職員が、生徒の安全を最優先で考え、活躍する機会を多く提供できていることが理由として考えられる。	A	「褒めて伸ばす」場面をさらに増やしていきたいと考える。些細なことであっても生徒を評価するよう教職員に啓発をしていく。また、健康・安全面を第一にした学校運営を継続していく。	安全・安心な学校についてのアンケートは高い数値が出ている。引き続き、安全第一という視点を忘れずに教育活動を推進してもらいたい。			
5	【現状】 ○ICT機器の活用を含め、指導方法を工夫・改善し、「分かる授業」を目指し、個々の教師の指導力向上に努めている。 ○計画的に研修に関する研修を行い、教職員の資質向上に努めている。 【課題】 ○ICT機器の効果的な活用について、教職員の指導方法を改善及び充実させる必要がある。 ○より一層、教職員一人ひとりの意識の向上に努めなければならない。	・信頼される教職員を目指した、指導力向上研修 ・信頼される教職員を目指した、研修の実施及び教職員一人ひとりの意識改革の推進	①年間を通じて、「分かる授業」を目指し、日頃の教材研究等を行い、教員相互の授業見学及び研修を実施する。 ②教職員一人ひとりが学習指導(指導方法)や生徒指導・教育相談(生徒・保護者対応)について校内研修を実施する。	①学校生活アンケート(生徒)の安全に関する質問で、「そう思う」の回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(保護者)で、安全及び健康指導に関する質問で、肯定的な回答が平均90%以上となったか。	方策の評価指標①については、96%となり達成できた。②については、91%となり達成できた。安全点検が確実に機能し、異常が見つかった場合には、優先順位をつけて迅速な対応をすることができている。	A	安全点検のみならず、日常的な確認を通して危険が予想される箇所についての認識をもつようにする。生徒が安全に生活できるかどうかを最優先に予算を執行していく。				
			①全ての教師が相互の授業見学を行い、研修を深めることができたか。 ②学校評価(教職員)で、「学習指導及び生徒指導」に関する質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。	方策の評価指標①については概ね達成できた。②については学習指導は87%で達成できなかった。生徒指導は92%で達成できた。教員は魅力ある授業にするため教材研究をしているが、結果が十分でない現状がある。	B	次年度は教員同士で授業を見合う取組を行い学校全体としての教育力を高めることへとつなげていきたい。生徒指導や教育相談については毎週の部会で対応についてより協議していきたい。	学校運営協議会としては、学校で考えた教育活動を応援していく姿勢でいる。学校として、やるべきことをやる、という当たり前のことを今後も継続してもらいたい。				
			①各学期に研修等に関する研修を実施する。 ②資質向上に向けた研修を実施する。	①全教職員が勤務に関しての意識の向上を図れたか。 ②学校評価(教職員)で、「保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上」に関する質問で、肯定的な回答が90%以上となったか。	方策の評価指標①については、達成できた。②については100%となり達成できた。校内の倫理確立委員会が確実に機能し教職員事故に係る具体例を提示したりロールプレイを行ったりして意識の向上を図った。	A	職員会議、倫理確立委員会、校内研修、朝の打合せなど、あらゆる機会を捉えて教職員のモラルの向上を図ってきたい。今年度に引き続き教職員に係る事故を皆無にしていく。				